

手術時の輸血量とフィブリノゲン値調査へのご協力をお願い

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇病院  
病院長 殿

埼玉合同輸血療法委員会 代表世話人 前田平生  
世話人 (別記)

謹啓

埼玉県合同輸血療法委員会は、国の指導に基づき、埼玉県内の血液製剤の適正で安全な使用を推進するために、平成21年7月に発足し、これまでに2回の「埼玉輸血フォーラム」を開催しその活動を報告してきました。

さて、近年の大量出血にかかわる研究では、その原因はフィブリノゲン枯渇性の凝固障害によるものが報告されています。当委員会としては術中の早期の凝固活性の低下を改善することにより FFP、ひいては RCC 輸血量の削減につなげることができるのではないかと仮定のもとに術前・術中のフィブリノゲン値を調査することといたしました。これにより、FFP 大量投与となる症例のフィブリノゲン値の実態がわかれば、これを参考にして、FFP 大量投与よりもフィブリノゲン製剤あるいはクリオ製剤投与を当初から考慮すべき症例を選択できます。結果として FFP 使用量が削減されることで、RCC 使用量も削減され、適正使用につなげることができます。

つきましては、手術時の大量輸血症例の輸血量とフィブリノゲン値の調査研究へのご協力をお願いいたします。

具体的には、本年9月から11月の3か月間を調査期間とし手術時に RCC 10 単位以上使用する大量輸血症例における輸血量と術前・術中フィブリノゲン値の前向き調査を行います。別添の調査票にご記入いただき、記入済み調査票を12月15日までにご返送願います。これらの結果は2012年1月21日の「第3回埼玉輸血フォーラム」で報告いたします。

ご多忙とは存じますが、上述の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

なお、本依頼状は輸血部(門)長にも送付していることを申し添えます。

敬具

2011年7月12日

事務局：埼玉県赤十字血液センター

製剤部 学術課 神山・田中

電話：042-985-6243

E mail : godoyuketsu@saitama.bc.jrc.or.jp

埼玉合同輸血療法委員会 世話人（氏名五十音順 敬称略）

代表世話人	埼玉医科大学総合医療センター	前田	平生
世話人	自治医科大学附属さいたま医療センター	安達	秀雄
//	埼玉医科大学総合医療センター	阿南	昌弘
//	埼玉医科大学国際医療センター/埼玉医科大学病院	池淵	研二
//	埼玉医科大学病院	板倉	敦夫
//	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	伊丹	直人
//	埼玉医科大学総合医療センター	大久保	光夫
//	防衛医科大学校病院	坂口	武司
//	埼玉医科大学総合医療センター	関	博之
//	埼玉県 保健医療部 薬務課	西川	由浩
//	自治医科大学附属さいたま医療センター	西田	淳二
//	埼玉県立小児医療センター	野村	耕司
//	獨協医科大学越谷病院	春木	宏介
//	深谷赤十字病院	平林	久美
//	自治医科大学附属さいたま医療センター	藤野	真治
//	さいたま赤十字病院	星野	茂
//	埼玉社会保険病院	前原	光江
//	埼玉県赤十字血液センター	南	陸彦

平成 23 年 5 月 16 日現在